

## 教職志望学生が感じている教職 e ポートフォリオ活用の効果

### The Effects of Using Professional ePortfolio That Student Teachers Are Realized

谷塚 光典<sup>\*1\*2</sup>, 東原 義訓<sup>\*1</sup>, 喜多 敏博<sup>\*2</sup>, 戸田 真志<sup>\*2</sup>, 鈴木 克明<sup>\*2</sup>

Mitsunori YATSUKA<sup>\*1\*2</sup>, Yoshinori HIGASHIBARA<sup>\*1</sup>, Toshihiro KITA<sup>\*2</sup>, Masashi TODA<sup>\*2</sup>, Katsuaki SUZUKI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 信州大学学術研究院教育学系

<sup>\*1</sup> Institute of Education, Shinshu University

<sup>\*2</sup> 熊本大学大学院教授システム学専攻

<sup>\*2</sup> Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: yatsuka@shinshu-u.ac.jp

あらまし：信州大学教育学部では、在学する4年間を通して、教職 e ポートフォリオを活用している。本研究では、卒業直前時期の学生を対象にアンケート調査を実施し、その分析から、教職 e ポートフォリオを4年間継続利用した学生が感じている教職 e ポートフォリオの効果を明らかにした。その結果、相互コメントによって、自分が気づかなかったことを気づく契機を感じていたり、他者からのコメントに反発・反論するのではなく素直に受け止めて自己の成長につなげようとしていたりしていることなどがわかった。

キーワード：e ポートフォリオ、履修カルテ、教員養成、教育実習、教師教育

#### 1. はじめに

信州大学教育学部では、2010年度入学生から新設・必修化された「教職実践演習」に対応するために、2001年度から継続的に利用してきた教育実習 Web ポートフォリオの基本コンセプトを活かしつつ、履修カルテとしても利用可能な教職 e ポートフォリオを導入した<sup>(1)</sup>。教職 e ポートフォリオにおける相互評価機能の設計と実装を行い<sup>(2)</sup>、教職志望学生による自己評価および学生間の相互コメントの効果を明らかにした<sup>(3)</sup>。学生は、教職 e ポートフォリオを活用して自己評価することを通して、教育実習を客観的に振り返ることができることを感じたり、自己課題を明確にしたりしていたことと合わせて、学生間の相互コメントを通して、教育実習を改めて振り返り、相互コメントすることの意義を実感していることがわかった。また、教職 e ポートフォリオに書かれた観点別自己評価や相互コメントの記述分析から、学生の成長過程を明らかにする試みをしてきている<sup>(4)(5)</sup>。

そこで、本研究では、「教職実践演習」履修後の卒業直前時期の学生を対象にアンケート調査を実施し、その分析から、教職 e ポートフォリオを4年間継続利用した学生が感じている教職 e ポートフォリオの効果を明らかにする。

#### 2. 研究の対象と方法

対象学生は、2012年度に信州大学教育学部に入学し、2015年度に「教職実践演習」を受講した4年次生である。「教職実践演習」の全講義の終了後、全学の e-Learning システム「eALPS」上で、アンケートを行った。実施時期は2016年3月であった。251名のうち67名から回答があった（回答率26.7%）。

次のような質問項目を設定し、自由記述または多

肢選択で回答を得た。（《 》内は回答形式）

- 同じコースの仲間からのコメントを読んで、何を学びましたか？《自由記述》
  - 学部指導教員からの指導者コメントを読んで、何を学びましたか？《自由記述》
  - これまで、コース・課程内の学生や教員と相互閲覧・コメントしました。もし、他に相互閲覧・コメントするとしたら、誰からどのようなコメントやアドバイスを受けたいですか？《自由記述》
  - 「教職 e ポートフォリオ（履修カルテ）」は、あなた自身が「目指す教師像」を明らかにするために役立つと思いますか。《選択、理由は自由記述》
- これらの他に、観点別自己評価の観点についての質問や、教職 e ポートフォリオのシステムの操作性等についても尋ねている。

#### 3. 結果

##### 3.1 相互コメントによる学び

相互コメントの記入・閲覧によって学生は何を学んだと実感しているかを明らかにするために「同じコースの仲間からのコメントを読んで、何を学びましたか？」と尋ねた。自由記述による回答では、主に、「視点」「仲間」「客観的」等の語句が多く使われていた。（以下、〈 〉内は学生の記述の引用）

「視点」については、〈自分とは異なる視点や立場からの意見はとても参考になった〉〈新たな視点が素直に自分の中に落ちてきて〉〈本当に多くの視点があると感じた〉のように、自分が気づかなかったことを気づく契機を感じていた。

また「仲間」については、〈仲間の大切さを学んだ〉〈仲間とともに切磋琢磨しながら大学生活を送ってきた〉〈仲間に認めてもらうことで自信をもつ〉〈これからも仲間とのつながりを大切にしてい

きたい>のように、「教師の同僚性」を感じていた。そして「客観的」についてでは、<自分ではわからない部分を客観的に見て><どこを実際には直さなければならぬのかを主観的ではなく客観的にコメントしてくれた><自分自身の利点や課題を客観的に見て明確に>のように、他者からのコメントに反発・反論するのではなく、素直に受け止めて自己の成長につなげようとしていることがわかった。

### 3.2 指導者コメントによる学び

4年次末の自己評価(総合評価と観点別自己評価)および学生間の相互コメントが終わった段階で、卒業研究の指導教員による指導者コメントを依頼している。その指導者コメントを読んで何を感じているか明らかにするために、「学部指導教員からの指導者コメントを読んで、何を学びましたか?」と尋ねた。自由記述による回答では、主に、「課題」等の語句が多く使われていたことと合わせて、今後の展望が示されていた。

「課題」については、<自身の課題に感じている部分を的確に指摘していただき><今後のさらなる課題を鋭く指摘して下さり><自分の課題を提示して頂いたので、今後すべきことの見通しを持つことができた>のように、日常的・定期的に接している卒業研究指導教員だからこそ指摘できることがあり、学生もそれを受け止めていることがわかった。

また、今後の展望については、<社会人として自ら仕事を進めていけるような人間になりたい><今までは何とか済んでいたことが仕事では重大なミスにつながることもあるので気を付けて過ごしたい><目指す教師像などの考えを深めることができた>のように、卒業してからも「学び続ける教員」であるための示唆を得ていることがわかった。

### 3.3 他者評価の相手

教職eポートフォリオシステムでは、他者評価の相手として、同じコース所属の学生と卒業研究指導教員を想定していた。そこで、もし他に他者評価を受けるとしたら誰から受けたいかを尋ねたところ、「学生」や「現職教員」からという回答が多かった。

「学生」については、同じコースの先輩や後輩に加えて、他コースの学生という記述もあり、学年やコースを越えた相互閲覧・コメントを望んでいた。

また、「現職教員」については、教育実習の指導教員が多くあがっていた。さらに、大学の教員でも、卒業研究指導教員以外の教員という意見もあった。

これらはいずれも、ユーザ登録と相互閲覧・コメント可能範囲設定によって実現可能であるので、今後の検討課題としたい。

### 3.4 教職eポートフォリオの効果

『「教職eポートフォリオ(履修カルテ)」は、あなた自身が「目指す教師像」を明らかにするために役立ったと思いますか。』という問いに対して4段階で回答を求めたところ、肯定的意見(「とても思う」「そう思う」)が54名(80.6%)と、否定的意見(「そ

う思わない」「全くそう思わない」)の13名(19.4%)を大きく上回った。その一方で、『あなたは、「教職eポートフォリオ(履修カルテ)」を教師になった後も継続して使っていきたいと思いませんか。』という問いに対して4段階で回答を求めたところ、肯定的意見(「とても思う」「そう思う」)が34名(50.7%)、否定的意見(「そう思わない」「全くそう思わない」)が33名(49.3%)と意見が割れた。

否定的な回答の理由としては、<12観点それぞれの意味が分からず嫌々入力することが多かった><意味がない><目指す教師像と12観点の結びつきが不明瞭であった>等の記述があった。

教職eポートフォリオの効果を感じつつも、作成に手間がかかることから、継続的な作成・利用にはつながっていないこともわかった。

## 4. おわりに

本研究では、「教職実践演習」履修後の卒業直前時期の学生を対象にアンケート調査を実施し、その分析から、教職eポートフォリオを4年間継続利用した学生が感じている教職eポートフォリオの効果を明らかにした。

今後の課題としては、今回の調査の回答率は26.7%にとどまっており、学生全体の意見を反映しているとは言えないかもしれない。実施時期や調査方法の工夫が必要であろう。

### 付記

本研究の一部は、JSPS科学研究費 基盤研究(C) 課題番号 25350325 「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職eポートフォリオの活用」(研究代表者: 谷塚光典)、及び基盤研究(C) 課題番号 16K01107 「協働的問題解決のための省察を促進する教職eポートフォリオシステムの開発」(研究代表者: 谷塚光典)の助成を受けたものである。

### 参考文献

- (1) 谷塚光典(2013) 信州大学におけるeポートフォリオの運用と工夫—自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して—。SYNAPSE, Vol.23, pp.12-15
- (2) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明: “教職実践演習に対応した教職eポートフォリオシステムの開発と評価”, 教育システム情報学会研究報告, 29(6), pp.97-102 (2015)
- (3) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明: “教職eポートフォリオの活用による教育実習生の自己評価および相互コメントの効果”, 日本教育工学会論文誌, 39(3): 235-248 (2015)
- (4) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明: “教職eポートフォリオにおける相互コメントに見る教職志望学生の成長”. 日本教育工学会研究報告集, JSET16-1, pp.533-538 (2016)
- (5) 谷塚光典, 東原義訓, 喜多敏博, 戸田真志, 鈴木克明: “教職eポートフォリオを活用した観点別自己評価に見る学生の成長過程分析の試み”, 日本教育工学会研究報告集, JSET16-2, pp.55-60 (2016)